



石小だより

～すてきな大人に育つ～

宇部市立黒石小学校
コミュニティ・スクール
校報第4号
9月号
令和3年8月25日

口癖は心癖に、心癖は口癖に

「あつ、校長先生。ご心配様です。いやあ、こりやあすごい雨ですね。」

大雨洪水警報が発令され、厚東川ダムの緊急放流が決定された8月14日(日)のことです。黒石小学校(中学校もです)は避難所に指定されています。その避難所開設の下準備で裏門を点検していた私に、道を挟んだ道路からご年配の方がお声をかけてくださいました。『危険な状況になりそうだと思われたら、どうぞいつでも学校へお越しください』と、お伝えすると

「去年の台風の時も体育館に一晩中電気がついちよって心強かったです。このたびも大事にはならんにやええなあと思います。校長先生もお気をつけて。本当にありがとうございます。」と頭を下げて、大粒の雨の中を戻っていかれました。感謝の思いで私も頭を下げながら、ふと考えれば昨年度の春に黒石小学校に就かせて(戻らせて)いただいてから、地域で「ありがとうございます」と、お声をかけていただき、心温かになったことの多さに改めて思い入りました。

黒石には、綿々と続く「ありがたい」という言葉を日常とする温かな文化風土があります。そして「口癖は心癖」になります。「心癖は口癖」でもあります。黒石のもつ、この温かな「心癖」と「口癖」を、子どもたちに確かに引き継がせたい。「たからもの」であり「未来からのあずかりもの」でもある、うち(黒石)の子どもたちの登校してくる姿を見て、あらためてその思いを強くします。

ただし「ありがとう」に表される、この感謝の心は、大人が総出で育てていくものです。決して自然発生的に感謝の心が芽生え育ってくるものではありません。特に昨今、私たちは「インターネット」「コンビニ」「スマホ」など、「即座の反応」を求め、それらを「よいもの」として生活しています。たしかに先人のおかげで平和と豊かさを享受でき、便利な中で暮らせることは素晴らしいことなのですが、反面それらの中で「待つ」ことへの耐性は驚くほど弱まっています。なにごともしづめていて当たり前、不本意なことは「おかしい」「誰かが悪い」と捉えてしまいがちでもあります。

一見当たり前に見えることもあらためて見つめ、考えさせることが大切です。「感謝」の反対は「当たり前」と申します。子どもたちは、まず、いかに自らが「当たり前」のように家庭・地域で愛され、守られ、慈しまれているか。そして先人の努力の帰結である豊かな土地と美しい自然に囲まれて生きているのか、ということに気づかねばなりません。その気づきが感謝の思いへと変わる先に「親孝行」があり、ふるさとへの愛着と誇りも生まれてきます。

私たちの、黒石という地域(家庭、学校も)が、敬意と感謝に基づく「善き口癖と善き心癖」にもっとあふれるよう、今後も皆様とともに取り組んでいきたいと強く思います。

いよいよ2学期が始まりました。コロナ禍の下ですが、何より安全を最優先した上で子どもたちの学ぶ機会を保障するために、引き続きのご協力とご参画を何卒よろしく願います。

校長 小松 茂 文